

WORLD ROWING U23 CHAMPIONSHIPS

2014 REPORT 10 (7/26)

大会4日目は夜半から降り出した雨の中はじまった。この日はBLM1x古米選手(日本大)の計量時から選手計量所が運営されていないというハプニングからはじまった。インフォメーションの掲示板では何もアナウンスされていなかったの、すぐさまインフォメーションセンターのスタッフに問い合わせると、シャワールームに移ったとのこと。急いで古米選手(日本大)とともにシャワールームに行き計量を済ませた。

選手計量所の変更についてのアナウンスがどのような手段で行われたかを確認すると、今回の選手計量所の移動についてのアナウンスは特にされておらず、施設の移動についてはそこなければスタッフに聞いてくれとのこと。スケジュールの変更は必ず掲示板で案内するとの回答だった。

10:40 BLM1x 決勝C

決勝Cの日本の先陣は、ここまで毎回積極的に仕掛け中身の濃いレースをしてきた古米選手(日本大)が出場するBLM1xである。このレースでもスタートから積極的に攻めトップデンマークと並ぶようにして0.97秒差の2位で500mを通過。第2クォーターに入りデンマークが少しずつ抜け出し1000mも2位で通過も2.46秒差に広げられる。第3クォーターも必死に食い下がるが差はじりじりと広がってきた。そして1000mで3位に浮上してきたスロバキアが日本に迫ってきた。息詰まるような第4クォーターでついにスロバキアにつかまり2位の座を明け渡す。さらに4位ノルウェーと5位ブルガリアが猛然と迫ってきたが、必死にスパートを入れ3位を死守。初めてのU23初挑戦を全体で15位で終えた。



スタッフに見送られ力漕を誓うBLM1x古米選手(日本大)



最後の力を振り絞りゴールに突き進むBLM1x古米選手(日本大:写真奥)

11:08 BLW2x 決勝C

ここまで苦戦が続いてきたこの種目ではあるが、出艇前から絶対やってやるぞオーラが満ち溢れており何かを期待させてくれた。これまでのタイム比較で明らかに厳しい相手もいる中で、スタートから失敗を恐れない果敢なアタックを見せ、500mをトップで通過。会場のアナウンスでも「Hamagami」「Yamaguchi」の名前が連呼されていた。しかし第2クォーターからは苦しい展開で、徐々にレースからおいて行かれることになりトップとの差は、1000mで6.47秒差、1500mで13.48秒差と大きく遅れることになった。しかし日本を代表して世界で戦う二人は最後まで諦めず一つでも上の順位を狙って非常に苦しい状況でも第4クォーターで必死のスパートを見せ、5位パラグアイとの差をグイグイ詰めていった。しかし距離が足りずに6位でゴール。全体の18位で大会を終えることとなった。



本日より観客むけに大型モニターにてレース風景を放映



懸命にラストスパートを繰り返すBLM2x
写真左よりB濱上選手(関西電力美浜)、S山口選手(日本大)

11:29 BW1x 決勝C

スタートから積極的に攻め500mでは2位ギリシャに2秒近い差をつけトップで通過。第2クォーターでもグイグイ抜け出し独漕状態で1000mを通過。しかしここから2位ギリシャが徐々に差を詰めはじめ1500mではトップではあるものの差を1.23秒差まで詰められてきた。第4クォーターに入るとギリシャが猛然とスパート。必死にこらえるもラストスパートでギリシャにかわされ2位でゴール。全体14位で大会ラストレースを終えた。



ゴールまで3レーンギリシャとトップ争いを繰り返し続けるBW1x 榊原選手(早稲田大)



レース後艇計量をおこなうBW1x 榊原選手(早稲田大)

11:57 BLM2- 決勝B

今大会先陣を切って日本チームに良い流れを与え続けてきた林選手(中央大)、藤田選手(一橋大)のBLM2-も最後のレースとなった。

スタートからトップスピードの高さを見せつけ500mを1位で通過。「Hayashi」「Fujita」の名前がアナウンスで連呼されている。第2クォーターに入るとアメリカがじりじりと前に出始め、日本、イタリア、ポルトガルが続く展開に。第3クォーターに入るとアメリカが完全に抜け出すが日本も2位を死守。1500mは3位地元イタリアと並ぶようにして2位で通過。第4クォーターに入るとイタリアクルーに対する大声援の中、地元クルーをラストスパートで突き離し、ゴール前で3位に浮上してきたノルウェーの追撃も退け2位でゴール。見事全体で8位の順位をマークした。



1700m付近を力漕するBLM2-
写真左より 林選手(中央大)、藤田選手(一橋大)



ゴール目前激しい2位争いを繰り広げるBLM2-
写真奥、左より 林選手(中央大)、藤田選手(一橋大)

13:30 BLW1x 準決勝A/B

決勝Aがかかった大一番。スタートからフランス、ニュージーランド、日本と続くがトップフランスから6位ベルギーまでが1.40秒差に収まる横一線の展開。第2クォーターで一気に伸ばしていきたいところであったが、1000mでは5位にポジションを下げたものの、1位オランダと3.33秒、決勝Aへの通過ラインである3位フランスとは1.74秒差とまだまだ全く分からない展開に。しかし第3クォーターに入り中々スピードに乗りきれないところで徐々に遅れだし1500mではトップから12.07秒差、3位フランスとは8秒余りの差となり苦しい展開になってきた。ラストクォーターでも展開を変えることは難しく6位でゴール。明日の決勝Bに進むことになった。



1800m地点を力漕するBLW1x
納田選手(関西電力小浜)

14:33 BLW2x 準決勝A/B

スタートから他艇が積極的に飛ばしていく中で、何とか流れについて行こうとするが500mをトップと5.83秒差、決勝Aの通過ラインである3位ハンガリーとは2.74秒差の6位で通過。第2クォーターに入っても中々主導権を握れないまま1000mを6位で通過。3位アメリカとは4.9秒差でつけている。ここから徐々にポテンシャルの高さを見せはじめ、1500mも6位通過ながら、4位ハンガリー、5位スペインと並ぶようにして6位で通過。第4クォーターに猛然とラストスパートを入れ4位に浮上。しかし決勝Aへの扉は既に閉ざされていた。

決勝Bにまわることになったが、新たな闘志を燃やしていた。



ゴール前、必死のラストスパートを入れるBLM2xクルー。

写真左よりB川本選手(日本体育大)、S富田選手(明治大)

残り1日、選手・スタッフ一丸となって戦って行きますので応援よろしくお願い致します。